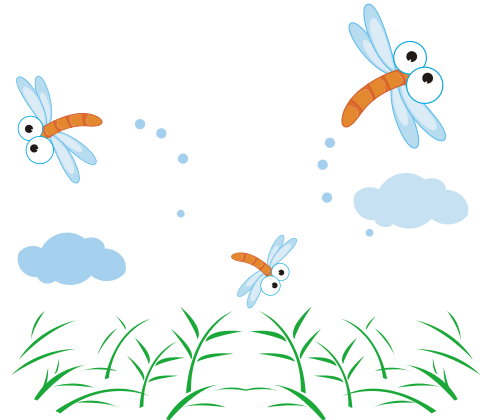


連絡先：(村田 090-1354-5974、三井 090-6412-4658)

こんにちは、教科書を考える呉の会～未来への架け橋～です  
夏休み中にニュースを発行したいと思って  
蝉のイラストを貼り付けていたのに…もう9月も中旬です

呉の大和ミュージアム前の広場ではこの夏、  
なんとお化け屋敷が出現  
この企画は呉市も後援していますが、なんかすごい違和感が…

9月14、15、16日も開催するそうです う～む



## 教育のつどい2013

この度初めて、教育のつどいへレポーターとして参加させていただきました。教科書を考える呉の会（以下、呉の会。）のことを多くの方に知っていただければと、軽い気持ちでお引き受けをしたのですが、出発10日前に分科会の全レポート（結構ぶ厚い！）が自宅へ届いたことで、ようやくレポーターとして発表する責任の重大さに気付く始末でした。

分科会初日の午前中は、「道徳」教育についてでした。埼玉県で使用されている道徳教材「天使の声（東日本大震災で避難をアナウンスし続け亡くなった町職員の話）」が“最後まで犠牲を覚悟で任務を全うする”国民づくりに利用されるのではないかとの問題提起がされました。賛否両論の意見が出されましたが、私は、呉で話題になっている「第六潜水艇（佐久間艇長の遺書）」問題と重なるところもあり、大変興味深く聞きました。午後からの教科書採択の報告では、愛知の新婦人から、皇国史観の教科書を子どもたちに渡さないために、400を超える教科書展示アンケートを投稿したとの報告がされ、参考になりました。ま

当会からもレポート提出&報告を行いました  
現地愛知で報告してくれてくれた当会の  
共同代表、村田さんの感想をご紹介します

た、呉の会へ「学習で得たことを教育委員会へ返して行ったらどうか」と貴重なアドバイスもいただきました。

分科会2日目は、高校の教育課程づくりについて報告がされました。高校生が主体となり、自ら考え発信する力を身につけるようになるというレポートは、聞いているだけでもワクワクする内容でした。

分科会両日を通して、押しつけられる「上からの改革」に対して、「子どものために」と創意工夫されている先生方の姿を間近に見ることで、日本教育に希望を持つことができました。

最後になりましたが、保護者の立場からのただの感想になってしまい、先生方にとって有益な報告とならなかったことをお詫びいたします。また、小学2年の娘を連れての参加でしたが、同行していただいた全教の先生方に、終始暖かいご配慮をいただき、楽しく参加させていただいたことを感謝いたします。ありがとうございました。

# 「天使の声」って知っていますか？ 「天使の声」って知っていますか？

このニュースの表面でも話題にあがりました「天使の声」。東日本大震災で南三陸町に大津波が襲った際、町の防災無線で町民に避難を呼び掛け続け、津波の犠牲になった町職員遠藤未希さん（当時24歳）のことは、報道などでご存知の方もいらっしゃると思います。埼玉県の公立学校で今年の4月から使われている道徳教材に「天使の声」として、未希さんのことが載っています。

埼玉県教育委員会では、平成22年度から埼玉県独自の道徳教材「彩の国の道徳」を作成、使用しています。ホームページ等を見ると、埼玉県教育委員会に「みんなのために命を賭すのは尊いこと」というような押し付けがましきはないようですし、指導案集には以下のような記述があります。

～本資料で大切なのは、人間としての誇り、心の強さや気高さをもっていることを気付かせることである。この話では、主人公は結果として命を落としている。この主人公が命を投げ出すことができる「スーパーヒーロー」のような存在にならない様に指導の際に留意する必要がある。自分も逃げ出したくなる状況であることに気づかせ、共感させることが重要である。またこの資料では、地震により多くの命が失われた事実を通じて、生命の尊さについても考えさせることができる。主人公が守り抜いた命もちろん大切であるが、主人公自身の命も尊いものであることに気づき、自分を大切にできることが他人も大切にすることにつながることに気付かせたい。～

「100ます計算」や「氷の結晶のはなし」、「千の風」ブームなど、これまで呉市の公立小学校では他県での実践やちょっといい話などを導入することが多かったようです。今後、「天使の声」の教材がプリントとして配布されることもあり得るのではないのでしょうか。

その際に、下線部のような思いは絶対に忘れてはいけないと思います。保護者としてどのような教材が導入されるか、どのように指導されるかは、絶えず見守っていきたいと思います。

## 呉市議会9月議会で教科書問題の質問！ 9月17日(火)10:00～ 是非、傍聴ください

9月11日から始まった9月議会、奥田和夫議員が17日の個人質問で教科書問題に関連した質問をされます。

以下は奥田議員の呉民主新聞から抜粋。

～呉市は、「核兵器廃絶・平和都市宣言」で核兵器廃絶を「緊急な課題」と位置付け、首長会議にもすすんで参加し、「2020年までに核廃絶を」と活動しています。しかし、庁舎に掲げられていた懸垂幕は降ろされています。そして中学校で学ぶ、公民の教科書では、「原爆投下後の広島」の写真を載せるだけ、本文には被曝の悲惨さも、被爆者の記述もありません。他の教科書に比べて異常

に少ない育鵬社を採用しています。

学習指導要領でも「広い視野に立って、諸資料に基づいて、多面的・多角的に考察し、公民的資質の基礎を養う」としていますが、これでは目的を果たすことになりません。なぜ適切な記述をしていない育鵬社を選んだのか。設定した「観点・視点・方法」に核廃絶を調べる項目がないからです。どんな展開になるのでしょうか。～

また、同じく17日の午前中、山上文恵議員も、男女共同参画に関して育鵬社教科書採択について質問されます。